ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ広報班の立ち上げにあたって

川本（かわもと）　浩紀（ひろとし）

四国地方整備局　企画部　企画課　（〒760-8554　香川県高松市サンポート3-33）

東日本大震災や，台風12号による災害に対して，全国の地方整備局からＴＥＣ－ＦＯＲＣＥを派遣した．ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの被災地支援活動については，被災地から感謝の意が寄せられるなど，その貢献は少なくないと考えられるが，自衛隊や米軍など他機関に比べて報道として取り上げられる回数は少なかった．要因の一つとして，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの広報の不足が考えられる．これらのことから，活動状況の記録や広報資料の収集・作成を現地において専属的に行う広報班を立ち上げた．本論文では，その取り組みについて紹介する．

キーワード　ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ，報道，広報，自衛隊，三分割法

1. はじめに

東日本大震災等の大規模災害時には，四国地方整備局を始めとする全国の地方整備局からＴＥＣ－ＦＯＲＣＥを派遣し，被災地で支援活動を実施したものの，他機関に比べ報道で取り上げられる回数が少なかった．

例えば，自衛隊などの応急対応部隊が現地にたどり着くための道路啓開の際には，自衛隊の他，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥと建設業者が実働部隊として活躍した．しかしながら，その事実に対する一般の認知度は高くない．

また，仙台空港の啓開については，米軍のトモダチ作戦が報道で大きく取り上げられたが，それ以前にその周辺で排水作業を行っていたのは，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥであるが，報道で取り上げられることはほとんどなかった．

ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの広報ができていない理由として，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥが設立してまだ数年であること，東日本大震災ほど大規模な災害に対する派遣がこれまでに無かったこと等から，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの広報が戦略的に行われなかった事が考えられる．

2. 広報の取り組みに対する反省，課題

東日本大震災時において派遣されたＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの活動状況の広報の課題としては，以下が挙げられる．

・活動状況を紹介する映像が不足
・現地で支援活動を行う隊員に広報用の資料の収集を兼務させることは困難
・支援対策本部で活動状況資料を作成しているので臨場感や速報性が欠如

これらのことから，活動状況の記録や広報資料の収集・作成を現地で専属的に行う広報班を設置した．

3. 学び

広報の取り組みについて問題点を抽出するため，東日本大震災時において広報業務に携わった方々へヒアリングを行った．

(1) 自衛隊に聞く

まず，復旧支援活動に際して，専属の広報班を設置し，戦略的な広報を行っている陸上自衛隊第１４旅団の広報班長にヒアリングを行った．主なポイントは以下である．

〇体制
・東日本大震災時の広報班の体制は，２～３名で全ての現場を廻り，新たに活動を始めたときや，特殊な活動などの撮影を行う．
・通常行われる活動については，作業を行っている隊員が対応を行う．
・広報班が，各部隊に配置されている．
・広報班の活動は専用の腕章を付けて，優先的に撮影等の活動を行う．
・地方協力本部という広報活動の支援組織がある．

〇撮影方法
・三分割法という効果的な撮影手法に留意している．
・状況の全体像を掴むために，全景の撮影とピンポイントでの撮影を行う．
・現在はデジカメでの撮影となっており，失敗も含め

ある程度の枚数を撮影し，取捨選択を行う．
・通常の行事等であれば４名程度で撮影を行い，とにかく記録を残すことに努める．
・様々な場所及び構図で撮影を行う．
〇その他ポイント
・基本的なことであるが，内部向け広報，外部向け広報の相違点として業界用語の使用を控える（使う）など，一般の方に対し伝えること，内部へ伝えることとの使い分けを行う．
〇三分割法とは
三分割法という撮影手法は，自衛隊でも採用されているもので，**図２**の様に画面を縦横それぞれに三分割して，水平線や縦線はこの線の上に，ポイントとなるものは，縦横の線の交点に置くものである．
被写体を画面の中心からわざと外すことで，バランスが取れた構図となる．

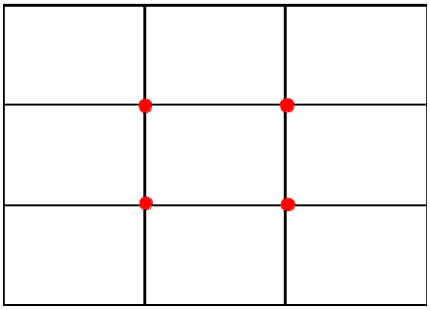

図２　三分割法を図示したもの

対照的な手法としては，日の丸構図というものがある．この手法は，被写体を中心に置くことによりインパクトのある写真を撮影できるという特徴がある．
写真１は日の丸構図で撮影した写真である．被写体を中心に置くことによりインパクトを持たせ，待機支援車を紹介する写真としては活用できる．しかしながら，周囲の状況と併せて車両の活動状況を紹介する写真としては活用が難しい．

写真１　日の丸構図で撮影した車両

一方，下に示す写真２は三分割法で撮影した風景写真であるが，地平線を三分割法の下のラインに配置することにより空の広がりを，またポイントとなる木を左側の交差点に配置し，空間の広がりも表現している．
また，写真３の様にひまわりの花を意図的に右下にもってくることにより，空に向かって花開くイメージを強調している．

写真２，３　三分割法による撮影例

これらの手法はあくまでも基本的なテクニックである．写真を見る人へ伝えたい事を念頭に置きながら，構図を常に考えることが必要である．被写体の配置の工夫により表現を豊かにすることが出来る．

(2) 内部の経験者に聞く

東日本大震災時の広報業務に携わった職員で，当時の苦労した点などについてブレーンストーミングを行った．主な意見は以下である．
・被災地の状況や作業前後の状況を撮影した写真はあるが，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの作業状況を撮影した写真がない．
・現場を見ていない者が活動状況などの記者発表資料を作成をしているので臨場感が無い．
・活動中に撮影した写真を，帰還後に作成するため速報性に欠ける．
これらのことから，現地において専属的に広報を行う部隊の設立や，写真撮影手法の修得の必要性など，これまでのＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ広報に不足していた課題が明らかになった．

4. 立ち上げ

(1) 任務，役割

広報班の任務は，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ隊員が活動する現地を廻り，被災状況の記録・支援活動の状況及び支援活動の結果を記録し，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの広報記事を作成することにより，その活動を広報することである．
指揮命令系統は，支援対策本部広報室からの指示により活動を行うこととする．
活動内容は，以下の通りである．
・ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ各班の活動エリアを廻り活動状況の撮影，取材等を行う．
・各地・各班から撮影データを収集．
・記者発表する資料を作成する．
また，今後の活動内容については，随時検討を行っていく．
以上のことを模式的に示したものが**図１**である．

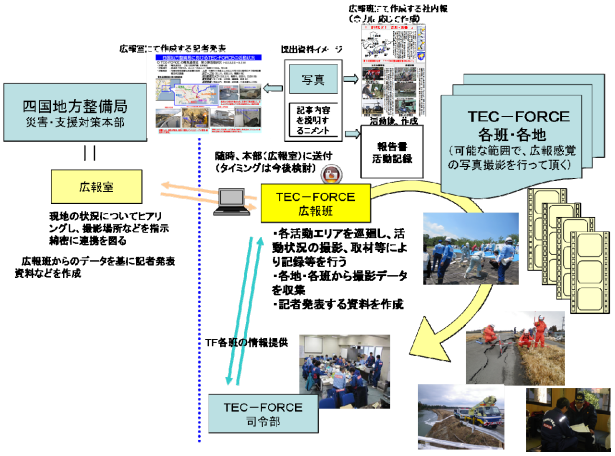

図１　ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ広報班イメージ図

写真４　排水ポンプ車の稼働状況を撮影

(2) 広報班の心構え

広報班の活動で留意する点は，多々あるが，現地に派遣された広報班隊員が端的に理解できるようその役割を五箇条としてまとめた．

広報班の心得五箇条

一．隊員の成果を見せるのは，自分の記事にかかっていると思え
一．現地特派員であると心得よ
一．常に広報できる素材を探せ，すべての部隊の動きを把握せよ
一．心に訴える映像，隊員の「頑張り」と，被災地の「思い」を撮れ
一．とにかく数を撮れ，数が解決することもある

5. 実証訓練

今回，６月１４日に行われた排水ポンプ車の操作訓練（香川県高松市の公渕池）の機会を活用して撮影手法の訓練を行った．

今回の実証訓練では，３名に広報班の心得五箇条を伝え，前述の撮影手法の簡易な講習を行い，広報資料に用いる静止画像を１００枚程度撮影することを依頼するというものである．

(1) 検証内容

今回は，排水ポンプ車の操作訓練に参加し，訓練の作業状況を撮影し，その写真の広報資料としての有効性を検証した．

a) 検証１

写真４は，排水の状況を撮影したものである．

上の２枚は，車両や吸い込み部など全体の状況１枚で収まらずわかりにくいものになっている．下にある写真は全景を納めたものとなっているが，遠景になってしまい，詳細が分かりづらいものになっている．

b) 検証２

写真５は先の事例と似通っているが排水ポンプ車の設置状況を撮影したものである．作業者の動き，ポンプ機材，ポンプ車が１枚に収められており，作業状況が伝わるものの，一方でポンプ車やホースが人の影に隠れている．後日の新聞記事の写真では，同じ構図であるもののポンプ車は明瞭に写っていた．

撮影角度，シャッターチャンスなどの改善点がある．

写真５　排水ポンプ車を設置する状況の写真

c) 検証３

写真６は，訓練中の休憩の一コマを撮影したものである．今までの記録写真ではこのようなものが撮影されることは無かったが，数を撮ることを意識づけした結果，普段とは違った写真を撮ることができた．

写真６　訓練中の休憩の一コマを撮影

実証訓練を行った結果，以下の問題が抽出出来た．

・簡易な講習のみでは，三分割法による撮影ができていない
・交点を利用した，被写体の配置が上手くできていない

・作業状況をうまく表現できるタイミングを逃している

(3) 解決策

前述の実証訓練より以下の事が明らかになった.

・撮影した写真の中には新聞記事に使われたものと同じような構図のものが存在した．数をこなすことにより構図の問題を，解決できる可能性がある.
・デジタルカメラの利点を活かし，多くの枚数を撮影することが重要.
・撮影のタイミングを逃さないため，連写機能の活用も有効.

また，現地に取材に来ていたＴＶ局のカメラマンに逆取材を行った結果，撮影の際は出来上がりをイメージして撮影をするなどの注意点についても伺った.

今後このような訓練を通して，写真撮影技術の習得を図ることが必要である.

6. 手引きの作成

これらの経験などを踏まえ，広報班としての活動を行う際に必要な心構えなどを掲載した「広報班の手引き」を作成した.

「手引き」には，広報班設置の目的や心構え，作業内容，今回検証を行った撮影手法を記載している．急遽，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ班として派遣されることとなっても，現地での作業が短時間で理解できるように簡潔なものを心掛けた.

また，今回作成している手引きに記載された撮影方法については，基礎的な構図である「三分割法」の説明を始め，これまでに練習等で確認し，検討をおこなったポイントなども記載した．今後様々な事案の練習や訓練を通して，改善を図りたいと考えている.

7. 今後の取り組みと課題

今回作成した手引きは，今後，広報の講義の受講や，撮影に関する練習を通して，充実を図る．また今後，大規模災害発生時に，広報班を現地に派遣することとなった場合においても広報班だけで全ての現場の記録を行うことは不可能である．現地に派遣されたＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ隊員による現場の記録等の協力が不可欠である.

そのため，上記手引きについては，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ広報班だけでなく，全てのＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ隊員候補者にも講習等で周知したいと考えている.

さらに，広報班として，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥとして被災地で活動する隊員の活動報告を職員報として作成するなど，活動内容の更なる展開を行っていきたい.

具体的な今後の取り組みとして，以下を予定している.

・７月２４日，２５日に行われるＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ研修に参加し，広報班の模擬訓練を実施
・広報に携わる者に限らず，ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ候補者全てを対象に８月上旬にＴＥＣ－ＦＯＲＣＥ広報班講習会を開催

8. おわり

ＴＥＣ－ＦＯＲＣＥの活動を広報するため，広報班を立ち上げた．訓練や現地への広報班の派遣を通してノウハウを蓄積し，より有効な広報を行うことが重要である.

今後，広報班により作成された記事が新聞等に掲載されるなど，数多くのメディアに取り上げられることを期待する.

また，本論文でまとめたことは，通常時の広報資料の作成についても共通する部分が多い．今後もより効果的に四国地方整備局の広報を行っていけるように努めていきたい.

謝辞：本稿の作成，広報班の立ち上げ，その後の講習会の開催など陸上自衛隊第１４旅団の方々には多大な協力を頂きました．心より感謝申し上げます.